

新年度を迎えた学科生に向けて

学科長 子安昭子

今年も桜の季節がやってきました。新しくポルトガル語学科の一員となる新入生そして在校生の皆さんを祝福するかのように、四ツ谷の土手の桜は今年も見事に咲いています。さあ皆さん、新年度のスタートです。気持ちを新たに、まずは学業に、そして日々の生活に精進されますように、教員一同応援したいと思います。

さて、学年が上がるにつれてわかると思いますが、ポルトガル語学科生の1年はとても忙しいです。むしろ内容が濃いと言えるでしょう。1年生はなにせ初めてポルトガル語を学ぶわけです。少なくとも毎日1コマ(90分)はポルトガル語の授業があります。文法、会話、読解、作文と様々な角度から、初修言語であるポルトガル語の基礎を身につけてください。加えて、我がポルトガル語学科は語学のみならずポルトガル語を話す国や地域の人や文化、社会事情などについて学ぶ、すなわち地域研究との両輪をモットーとしています。語学と地域研究を同時に学ぶということをどうぞ忘れないように。

2年生では1年生の時に学んだ基礎をさらにレベルアップすることが目標です。授業名こそ同じ「基礎ポルトガル語」ですが、内容はぐっと深く、そして高度になります。気持ちを引き締めて授業に臨むように。そして研究コースについて真剣に考えるのも2年生です。自分はどの研究コースを選択するのか、それによって履修する授業も変わってくるはず。3年生・4年生になった自分を想像して、履修計画を立てることが必要です。

3年生・4年生は、必修語学については、「基礎ポルトガル語」から「総合ポルトガル語」にかかります。授業ではプレゼンテーションやディスカッション(もちろんポルトガル語で)が多くなります。ただ重要なのはポルトガル語で「何を」伝えるか、です。ポルトガル語でブラジルの経済について発表することになった時、いくらポルトガル語が上手でも、内容がなければ、優れたプレゼンテーションとはいえません。そのためにも語学以外の授業を通して、自分の関心を広げてください。3年生から履修できる演習(ゼミ)にも積極的にチャレンジするようにしましょう。

3年生も後半になると、「就職」の2文字が大きくなってくるでしょう。ましてや4年生の皆さんには現実問題です。難しいとは思いますが、授業とのバランスをとりながら、乗り切ってほしいと思います。次の桜の季節が皆さんにとって社会人としての良き門出になりますように！

確かにポルトガル語学科の学生にとって4年間はあっという間です。どうかあせらず、一步一步進んでください。すべての学科生が、自分の将来に向かって実り多き学生生活を送ってくれることを心より期待しています。